

令和4年度(2022年度)セタシジミ資源概況調査

井戸本純一

1. 目的

近年、セタシジミの漁獲量は100トンを下回っており、セタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業を推進する必要がある。その基礎資料を得るため、産卵期にあたる5～7月の禁漁期間中に実際の漁具を用いて調査を行っている。

2. 方法

2022年6月16日および17日に琵琶湖北湖一円の主要7漁場を含む16漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる漁船および貝桁網（開口幅167cm、目合約3cm）を用いて調査した。曳網時間は船頭の任意とし、各漁場内で3回繰り返してそれぞれ採捕したセタシジミの個体数、重量、殻長を記録した。曳網面積の確度を高めるため、漁具にボイスレコーダーを取り付け、振動の変化を解析ソフトで視覚的に判別して接地時間を特定し、その間のGPSの軌跡から曳網距離を割り出した。

3. 結果

曳網面積1㎡あたりの全入網個数（資源密度）は、全漁場の平均では前年の0.18個体/㎡から0.40個体/㎡に増加した（右表）。地域別の平均では、東岸で前年の0.19個体/㎡から0.38個体/㎡に倍増したのに対し、西岸では0.18個体/㎡から0.45個体/㎡とさらに増加幅が大きかった。

主要7漁場の平均は0.32個体/㎡（右表）で、前年から1.5倍の増加にとどまった。漁場別では、松原で大幅に増加した一方、沖島西および沖島南西で減少した（図1）。サイズ別では、漁獲対象である殻長18mm以上の密度が平均0.13個体/㎡から0.11個体/㎡に若干減少した一方、18mm未満は0.09個体/㎡から0.21個体/㎡に倍増した（図2）。

表 2022年禁漁期における漁場別資源密度

漁場	曳網回数	平均曳網面積(m ²)	平均資源密度(個/m ²)	標準偏差
東岸				
今西	3	164	0.21	0.06
長浜	3	221	0.19	0.06
磯	3	171	0.26	0.06
松原	3	191	0.92	0.13
石寺	3	156	0.22	0.06
新海	3	103	0.22	0.09
沖島東	3	46	0.28	0.11
沖島西	3	207	0.22	0.003
沖島南西	3	173	0.12	0.05
牧	3	294	0.54	0.19
菖蒲	3	299	1.00	0.19
西岸				
海津	3	78	0.19	0.05
針江	3	43	0.48	0.18
鴨川	3	156	0.27	0.08
高島	3	131	0.58	0.12
近江舞子	3	134	0.73	0.14
平均			0.40	
主要漁場			0.32	

※ゴシック体は主要漁場

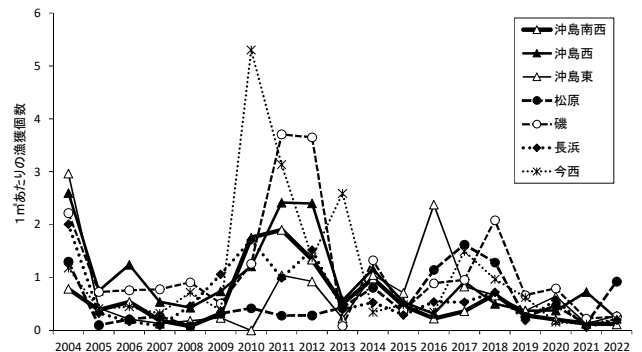


図1 各主要漁場における資源密度の推移

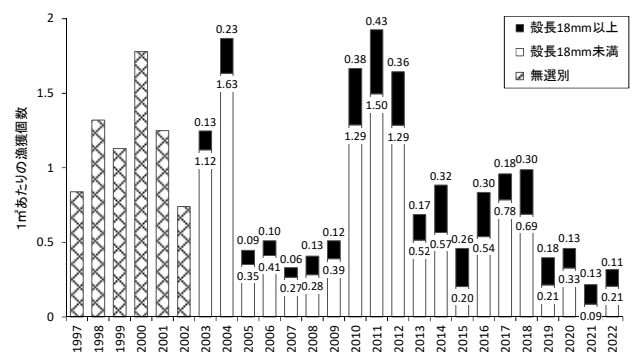


図2 主要漁場における平均資源密度とサイズ別内訳

本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。